

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20401041

研究課題名（和文） ヨーロッパ流動軸（ユーロコリダー）の形成にともなう
ライン地域の空間再編研究課題名（英文） Reorganization of the Rhine region by the growth of
Eurocorridor (European axis of transportation)

研究代表者

手塚 章 (TEZUKA AKIRA)

筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授

研究者番号：60155455

研究成果の概要（和文）：

本研究では、ベネルクス諸国からドイツ・フランス・スイスの3国国境地帯にいたるライン地域の空間動態を、ヨーロッパ流動軸（ユーロコリダー）の形成という視点から解明することを目的とした。このため、ライン地域を構成する3言語（オランダ語・ドイツ語・フランス語）地域からそれぞれ調査地区を選定して、資料収集・観察・聞き取りなどをもなうインテンシブなフィールドワークを実施した。その成果の一部は、すでに雑誌論文や図書収録論文として公刊してきた。また、本研究成果の全体を取りまとめた著作を、出版する計画を進めている。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to clarify the spatial transformations of the Rhine region in terms of the growth of *Eurocorridor*, i.e. European axis zone of transportation. We chose three districts from three different language areas (Dutch, German, and French), and conducted intensive fieldworks including interviews, field observations, and documentations. The results were published partly as journal articles and book chapters. Also, a publication plan is now progressing for the book of whole major results of this research project.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2008年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2009年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総 計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究代表者の専門分野：ヨーロッパ地誌

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：ヨーロッパ、EU、ライン川、流通、産業

1. 研究開始当初の背景

ライン地域は、中近世以降、つねにヨーロッパの中軸地帯として位置づけられてきた。しかし、同時にライン地域は、ヨーロッパの主要な境界地帯という性格をあわせもっている。すなわち、そこは国境線と言語境界線が複雑に錯綜している地帯であり、国境の障壁性が強かった時代には、国境をこえてライン地域が一体的に機能する状況はみられなかった。ライン地域がヨーロッパ流動軸（ユーロコリダー）としての実態をそなえ、さらに発展へのはずみを獲得したのは、1990年代にシェンゲン空間が実現して国境の物理的な障壁性が消滅してからである。これ以降、政治的・文化的な境界線をこえて、交流軸・流動軸の形成が活発に進んでいる。本研究グループでは、以前に、リールやザールブリュッケン、バーゼルなどの国境都市を「トランスボーダー都市」として捉えなおす研究を行っており、その過程のなかで、本研究の計画が立案された。

2. 研究の目的

ライン地域は、ヨーロッパのなかでも、脱国境時代の空間変容が最もダイナミックに進展しつつある地域といえる。他方で、政治・文化的に多様なモザイク状況を呈するこの地域で、ヨーロッパ流動軸の形成は、異質な空間単元の交流・連携という文化・社会的な課題を顕在化させた。オランダ語圏・ドイツ語圏・フランス語圏にまたがるライン地域については、これまで統一的な視点にもとづく研究がとぼしかった。そのため、本研究では、ライン地域を構成する3言語地域から、それぞれ重点調査対象地区を選定し、ヨーロッパ流動軸（ユーロコリダー）の成長にともなう空間組織の再編状況を実証的に明らかにすることを目的とした。シェンゲン空間の形成以降の動向に焦点をあてて、現地調査にもとづく地域動態の変容解明に取りくむ本研究は、日本における従来のヨーロッパ研究に欠落していた研究視点や研究枠組みを補充するものである。

3. 研究の方法

本研究は、貨物流動や企業活動、人々の交通流動などに焦点を合わせて、ライン地域がヨーロッパの交流軸を形成するにいたった過程を考察し、それに伴って空間組織がどのように再編されたかを解明することを主眼としている。ライン地域は複数の国・言語領域にまたがっているため、オランダ語圏・ドイツ語圏・フランス語圏のそれぞれを専門と

する地理学研究者と、中心的な考察テーマである流通地域論・産業地域論・都市地理学のそれぞれを専門とする研究者の6名で研究組織を構成した。具体的には、以下にあげる3つの重点調査対象地区について、各2名のグループによる継続調査を実施した。また、ロッテルダム地区とラインルール地区については、6名全員による各1週間程度の現地調査および現地討議を、2年目および3年目の調査期間中に実施した。

(1) オランダ語圏地域（伊藤貴啓・兼子 純）

ヨーロッパ最大の港湾であるロッテルダム港（ユーロポート地区を含む）について、EUにおける貨物流動の表玄関である港湾地区の機能と後背地、河川交通・道路交通・鉄道交通などとの結合状況に関して調査を実施するとともに、国境をこえての交通ネットワークの整備状況と将来的な課題について検討した。また、ナイメーヘンやマーストリヒトなど、隣接諸国との国境線に近い都市について、トランスボーダーな地域連携の進展状況について調査した。

(2) ドイツ語圏地域（呉羽正昭・小田宏信）

ドルトムントからエッセン、デュイスブルクをへてケルン、ボンにいたるラインルール地区について、かつての重化学工業地帯からヨーロッパ最大の都市的産業集積地域に転換をとげた空間組織の新しい側面に焦点をあわせて現地調査を実施した。具体的には、諸都市における産業機能の立地と分業体制、交通ネットワークの整備と河川交通の役割、大都市圏の整備計画における諸都市の連携体制などに関して検討した。また、流動事象のうち、観光流動や人口流動に焦点をあてて、広域的な地域間流動の状況を考察した。

(3) フランス語圏地域（手塚 章・伊藤徹哉）

ストラスブール大都市圏を含むアルザス地方のバラン県を対象として、ドイツ企業をはじめとする外国企業の進出状況、ドイツ人やルクセンブルク人など国境を接する外国人のフランスへの移住実態、フランス人のドイツやルクセンブルクへの通勤状況、流動軸としてのライン川交通の現状と課題、ストラスブール港の物流機能と後背地などに関して資料収集を実施した。また、国境をこえての交通ネットワークの整備状況と今後の課題について検討した。

4. 研究成果

本研究は、2008年度に研究を開始して以来、各メンバーおよび各グループが、研究対象地域に含まれるヨーロッパ各国において、上記

の設定テーマに関する現地調査を実施するとともに、関連する資料を幅広く収集してきた。また、現地調査にもとづく実証的研究の成果や収集した資料にもとづく文献研究の成果の一部を、雑誌論文あるいは図書収録論文というかたちで公開した。

(1) オランダ語圏地域に関しては、オランダの地誌的研究を長く続けてきた伊藤（貴）が、オランダ国内諸地域に関する産業・生活の変容について論文を公表した。とくに、オランダとドイツの国境地帯に注目した論文では、トランスボーダーな地域連携が 1990 年代以降、積極的に展開されてきた状況を詳しく紹介した。また、流通地理学を専門とする兼子は、ロッテルダムがヨーロッパの物流システムの中核として、EU 統合下のヨーロッパで急成長をとげた過程をあとづけた。

(2) ドイツ語圏地域に関しては、呉羽・小田を中心として、旧ルール工業地帯の著しい変貌を調査し、ヨーロッパ最大の大都市地域として再生しつつある状況をまとめている。また、観光地域研究を専門とする呉羽は、ドイツや周辺諸国における観光流動の実態を整理した。工業地理学を専門とする小田は、ライン地域の一部をなすマース川やスヘルデ川の下流域について、シフトシェア分析法を用いることにより、産業地域の空間再編状況を考察した。

(3) フランス語圏地域に関しては、手塚がストラスブールを中心とするアルザス地方の地域変化について、トランスボーダー化の進展という視点から検討した。また、ドイツ語圏地域の研究者である伊藤（徹）は、アルザス地方のバラン県に隣接するカールスルーエ大都市圏や、ロレーヌ地方のモーゼル県に隣接するザールブリュッケン大都市圏等について、国境をこえた都市化や地域連携の進展にともなう空間再編状況に関して研究成果をまとめている。

(4) 上記 (1) ～ (3) の研究成果は、すでに数編の雑誌論文および図書収録論文等として公開されている。また、未発表の研究成果についても、今後 1 ～ 2 年のうちに、研究方法で記した 3 つの重点調査対象地区ごとに成果を整理して、3 部構成の内容からなる著書を刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

①伊藤貴啓：オランダにおける越境地域連携

の展開：独蘭国境地帯に注目して．新地理，58 巻，43-53，2010 年．査読有．

②Kureha, M.: Research trend in the geography of tourism in Japan. *Japanese Journal of Human Geography*, Vol. 62, 558-569, 2010 年．査読有．

③伊藤貴啓：オランダ農業は「景観常新」？地理，54 巻 5 号，78-89，2009 年．査読無．

④伊藤徹哉：ミュンヘンにおける都市再生政策に伴う空間再編．地理学評論，82 巻，118-143，2009 年．査読有．

⑤小田宏信：フランス北東部の地域産業動態：シフトシェア分析を用いて．成蹊大学経済学部論集，39 巻 2 号，145-154，2009 年．査読無．

⑥兼子 純：ロッテルダム：欧州のロジスティック・センター．地理，54 巻 4 号，36-42，2009 年．査読無．

⑦伊藤貴啓：特命全権大使の観たオランダの現在．地理，54 巻 4 号，18-27，2009 年．査読無．

〔図書〕（計 10 件）

①手塚 章：自然環境と伝統的農業．加賀美雅弘編『EU』朝倉書店，9-21，2011 年．

②小田宏信：工業地域の形成と発展．加賀美雅弘編『EU』朝倉書店，24-37，2011 年．

③伊藤徹哉：都市の形成と再生．加賀美雅弘編『EU』朝倉書店，40-50，2011 年．

④呉羽正昭：観光地域と観光客流動．加賀美雅弘編『EU』朝倉書店，53-61，2011 年．

⑤伊藤貴啓：低地の生活（オランダ）．中村和郎ほか編『地理教育と系統地理』古今書院，876-893，2009 年．

⑥手塚 章：ヨーロッパ中軸国境地帯の変容．手塚章・呉羽正昭編『ヨーロッパ統合時代のアルザスとロレーヌ』二宮書店，7-25，2008 年．

⑦ピエルメイ，J. -L. ・手塚 章：アルザス：フランスの周辺からヨーロッパの中心に．手塚章・呉羽正昭編『ヨーロッパ統合時代のアルザスとロレーヌ』二宮書店，28-43，2008 年．

⑧手塚 章：ストラスブール：国境都市からトランスボーダー都市へ．手塚章・呉羽正昭編『ヨーロッパ統合時代のアルザスとロレーヌ』二宮書店，74-89，2008 年．

⑨呉羽正昭：グランドリージュン（Saar-Lor-Lux 国境地帯）における人口流動．手塚章・呉羽正昭編『ヨーロッパ統合時代のアルザスとロレーヌ』二宮書店，146-163，2008 年．

⑩呉羽正昭：統合ヨーロッパにおける国境地帯の将来と課題．手塚章・呉羽正昭編『ヨーロッパ統合時代のアルザスとロレーヌ』二宮書店，165-176，2008 年．

6. 研究組織

(1) 研究代表者

手塚 章 (TEZUKA AKIRA)
筑波大学・大学院生命環境科学研究科・
教授
研究者番号：6 0 1 5 5 4 5 5

(2) 研究分担者

呉羽 正昭 (KUREHA MASAOKI)
筑波大学・大学院生命環境科学研究科・
教授
研究者番号：5 0 2 6 3 9 1 8

伊藤 貴啓 (ITO TAKAHIRO)
愛知教育大学・教育学部・教授
研究者番号：1 0 2 2 3 1 5 8

小田 宏信 (ODA HIRONOBU)
成蹊大学・経済学部・教授
研究者番号：3 0 2 8 0 0 0 1

伊藤 徹哉 (ITO TETSUYA)
立正大学・地球環境学部・准教授
研究者番号：2 0 4 0 8 9 9 1

兼子 純 (KANEKO JUN)
筑波大学・大学院生命環境科学研究科・
助教
研究者番号：4 0 3 7 5 4 4 9